

# 多彩な活動 景觀行政動かす

さまざまな生業の老舗や  
低中層の町家・住宅が立  
ち並ぶ姉小路通



# 姉小路界隈を考える会 街並み守つて20年

これが、『姉小路盆地』  
(特殊なカメラでパノラマ撮影しているため  
わん曲して写っています)

「考える会」が発足当初から取り組んでいるのが、地域の歴史的・文化的資源を活用した多彩でユニークな催しです。

「界隈を楽しみ、界隈の人が楽しむ  
ユニーク催しで地域を再発見

人墨客の手になる「看板」に着目した「看板に似合うまちづくり」「地蔵盆の夜に町家や看板をライトアップする「灯りでむすぶ姉小路界隈」(97年)、鉢植えを通りに並べてもなじの心を表現する「花と緑でもなす姉小路界隈」(98年)。界隈在住の看護師を講師に、町家でストレッチと筋力トレーニングを行う「町家体操」も50年から続いている。

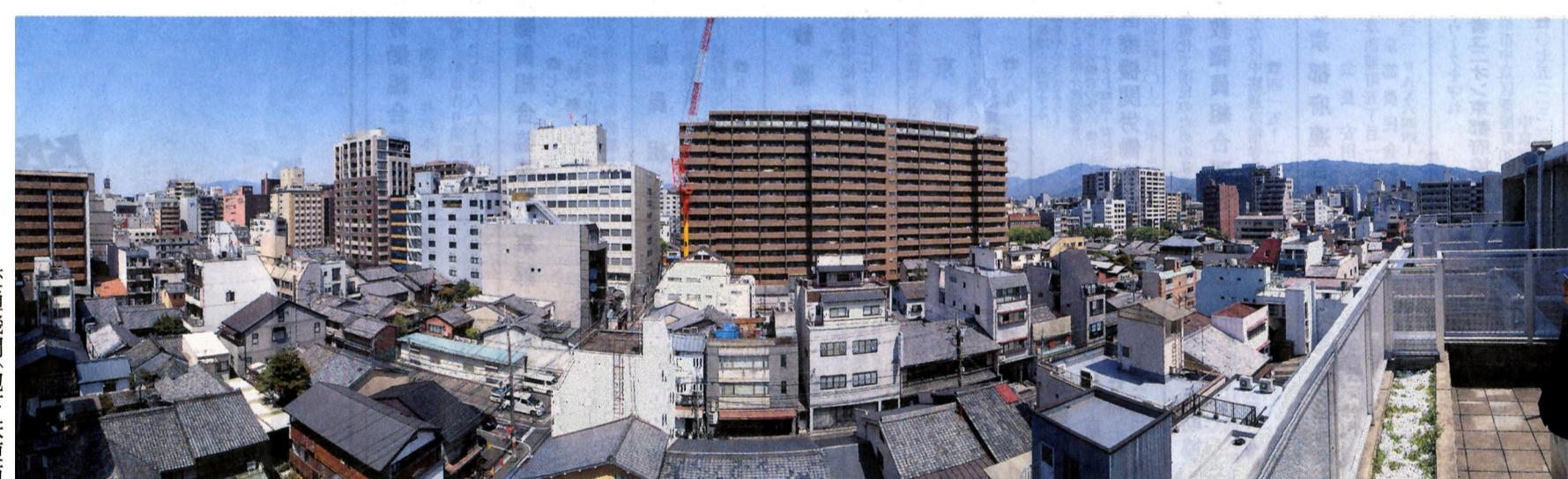
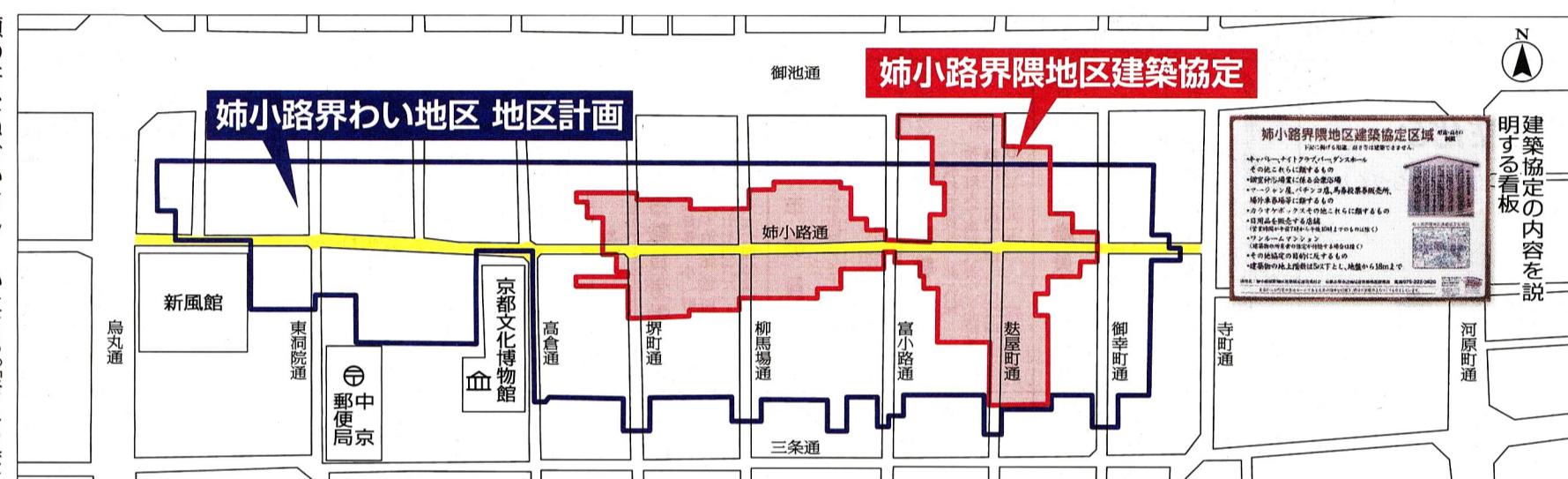


「地域景観づくり協議会」認  
説明する谷口事務局長(2月)

究者・専門家、行政とも連携した多彩なまちづくりの取り組みは、国や京都市の景観行政にも大きな影響を与えてきました。（真下哲）

将来像の共有  
目的に掲げる

ペッタン、ペッタン、  
路通に軽快な杵音きねが響いていました。20日行  
われた、「京都を彩る  
建物や庭園」選定証授  
式を祝した餅つき大  
会。会場となった町家  
には、界限の住民や同  
会を支援するまちづく  
りの専門家や研究者、  
行政関係者ら約100  
人が集まりました。  
慣れた手つきで1斗  
分の餅をついた南博中  
さん（京都外國語大学  
国際文化資料館館長）は、京都文化博物館学  
芸員時代から同会の活動に携わってきました。  
「住民が主体となつたまちづくりの活動は、私たちにとっても格好のフィールドワークの場です。『お手伝い』なんてえらそうにいいますが、学ばされることばかりですよ」と話しました。



交通機関(地下鉄東西線「京都市役所前」、同烏丸線「烏丸御池」)に近い利便性から1980年代中ごろ以降、界隈を含む中心市街地(職住共存地区)は常に開発圧力にさらされてきました。

でした。内容は、築150年の町家の蔵から見つかった「町式目」（江戸時代の自治管理の取り決め）を現代的に復刻したもの的具体化。「身丈にあつた低中層の町並みの維持」「なりわいの活気と住むことの静けさが共存する落ち着いた風情のまち」（姉小路界隈町式目〔平成版〕）を目的に、建物階数は5階以下（高さ18m以下）とし、風俗関連営業やコンビニエンスストアなどの用途を制限しました。

締結（02年）当初は83軒が加入。一昨年の更新時には88軒に増え、商業地域での協定どし

「姉小路盆地」  
「抑止力」示す

エレベーターを降りると、御池通沿いに林立するマンションなど高層ビル群の手前にぽつかりとできた「空間」が飛び込んできました。谷口親平事務局長が少し誇らしげに説明します。「姉小路通を中心には、西は堺町通から東は御幸町通まで低中層の家々が建ち並ぶ。まるで『盆地』みたいやろ」。新景観政策（07年9月）によって、職住共存地区の高さ規制が15mに強化され、会の認定を目指しています。

市古和弘会長は20年の活動を歩みをこう振り返ります。「反対運動だけではなく、足元を見つめて、地域全体でまちづくりの共通認識を持つことを心掛けてきました。ここに尽きますよ」

れ、04年度からは町家の外観改修に助成が受けられる国の「街なみ環境整備事業」が姉小路界隈の建物に適用されました（3月末で終了）。また、現在は、建築協定、地区計画に統一、地区内の建築に事前協議を義務付ける「地域景観づくり協議会」の認定を目指しています。

姉小路界隈を考える会		国・京都市など
1995年	「姉小路界隈を考える会」設立(10月)	
1997年	灯りでむすぶ姉小路界隈開催(毎夏の姉菊屋町地蔵盆時に開催)	
1998年	地元、事業者、京都市で「アーバネックス三条」基本計画をまとめる(1月)	
1999年	ホームページ開設(1月)	
2000年	姉小路界隈町式目(平成版)策定(4月)	
2001年	御池通45階マンション建設反対の署名活動(11月)	「京都市都心部のまちなみ保全・再生に係る審議会」(まちなみ審議会)設置(1月)
2002年	姉小路界隈地区建築協定締結(7月)	まちなみ審議会「提言」発表(5月)
	アーバネックス三条竣工(8月)	日本建築学会「京都の都市景観再生に関する提言」発表(6月)
2003年	NPO法人「都心界隈まちづくりネット」設立(1月)	まちなみ審議会提言に基づき、「京都市都心部の新しい建築ルール」施行(高さ規制強化と容積率を下げるダウンゾーニングが実現)
2004年	街なみ環境整備事業開始(9月)	景観法制定(6月)
2005年	町家体操スタート(毎週火曜日)(1月)	「時を越え光り輝く京都の景観づくり審議会」(景観審議会)(7月)
2006年	北海道旭川市の「5.7小路ふらりーと」と姉妹小路協定調印(10月)	景観審議会「答申」発表(11月)
2007年	新京都市景観政策の支持表明書の提出(2月)	新景観政策実施(職住共存地区の高さ制限31階→15階に)(9月)
2010年	姉小路通(御幸町～柳馬場間)の路側帯拡幅(2月)	
2013年	姉小路通電線地中化(烏丸通～寺町通)の要望書提出(2月)	
	姉小路界隈地区地区計画の都市計画決定(7月)	
2014年	地域景観づくり協議会の認定申請(3月)	 「京都を彩る建物や庭園」選定証を受け取る市古会長(左)